

「肝心闇話」

校訓：自主 責任 奉仕 協力

(文責：校長)

よく学び、共に生きる生徒 ①正しく考える ②愛する ③尊ぶ

確かな学力 思いやりの心・たくましい体 豊かな人間性 主体的な生活設計 郷土を愛し、郷土に活きる力

□□オアシス

「おはようございます。」「ありがとうございます。」「しあわせだなあ。」「すみません。」

「リフレーミング」してみませんか？

今時、教師たるもの、一人ひとりの子どもをしっかり見ることが大切な役目だといわれます。

では、先生方は、「子どものどこを」見ているでしょうか？

子どもの表情、行動、服装や持ち物、いろいろなところに気を配っているはずですが、実は、それは、子どもという「図」を一生懸命みている状態なのです。

人間がものを見る時、すなわち、目から入る視覚情報を処理する時、心理学では右図のような「ルビンの盃」が用いられます。黒い部分を「図=物体」として見ると、向かいあつた人の黒い影が見えます。その時、白い部分は「地=背景」です。しかし、白い部分を「図=物体」として見ると、黒い「地=背景」には白い花瓶がみえるでしょう。

次に、人影と花瓶を同時に見てみてください。どうでしょうか？ 同時に2つのものを見ることができないことがお分かりでしょう。つまり、目の前の物体を見ることは、それ以外の情報を背景にして、見えなくすることと同義だということです。

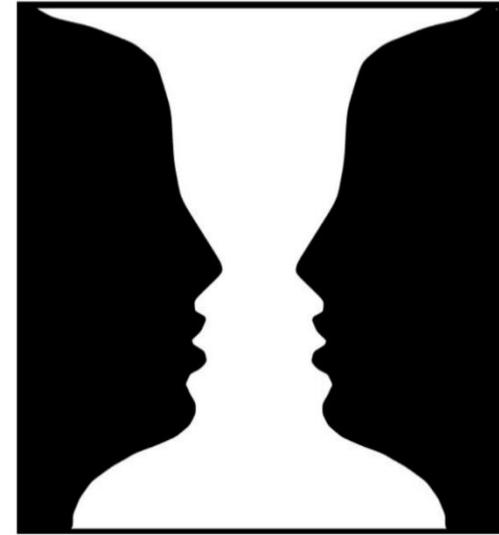
これは、子どもを見る場合も同じなのです。子どもそのものに注目すればするほど、それ以外の情報が見えなくなります。子どもが良くない行為をした時、その時「図」である子ども自身やその行為に注目すればするほど、「地」である環境や状況は見えにくくなるというわけです。

子どもの成長は一様一律ではありません。いつも同じ方向からみるのではなく、一瞬目をつぶって再び目を開け、違う観点からも見てみるという癖をつけましょう。

※リフレーミングとは…ある枠組みでとらえられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見ること。

＜例＞・あきらめが悪い → 一途な、チャレンジ精神に富む

- ・いい加減な → こだわらない、おおらかな
- ・うるさい → 明るい、活発な、元気がいい
- ・おっとりした → 細かいことにこだわらない
- ・頑固な → 意志の強い、信念がある
- ・しつこい → 粘り強い
- ・ずうずうしい → 堂々とした
- ・せっかちな → 行動的な、すぐに行動に出る
- ・だらしない → こだわらない、おおらかな
- ・冷たい → 知的な、冷静な、判断力がある
- ・人に合わせる → 協調性がある



幸せになりたいの。
嫌よ、貴方と別々に
なんて：そんなの私
じやないから。一生
私の愛する人は貴方
だから、おねがい。

(出典
「54字の物語」)

↑
反対(左)から読むと意味が変わる。

進路指導は早い時期から！

中学3年生になると、オープンハイスクールや学校説明会などがあって、初めてその高校に行く生徒が多いと思います。実際に高校に行ってみると、その高校の雰囲気や匂いを感じ、「行きたい！」という気持ちが高まることもよくありますが、すでに学力が伴わず、断念するというケースも多いのではないでしょうか？ そもそも、中学3年生の11月にもなって、進学する高校に初めて行くということ自体、遅いと私は思います。

私はバレーボール部の監督もしていましたが、いつも意識していたのは、生徒に勉強との両立をさせることであり、3年間、休みの日もバレーボールをさせて生徒たちの自由な時間や家族との時間を奪っているのだから、進路まで面倒をみようと思ってやってきました。

その頃は、公立高校と私立高校では、経済的にも学力的にも公立高校の方が上だったので、「部員全員公立高校進学」を目標にしていました。そこで、中学1年生の頃から、しばしば公立高校に練習に連れて行くようにしていましたが、中学1年生の時に高校に連れて行くと、早くから「この高校に行きたい」などと言い出すのです。しかも、中学1年生の時の成績が及ばなくても、本気で「行きたい」と言い出した生徒は、その後、メキメキと成績をあげていくことを何度も経験しました。

私の長男の話。中学1年生の1学期の成績は、ほとんど3と4で、3の方が多いという、普通より少し上というものでした。当時、学年主任だったI先生からは、「勉強はあまりでけへんけど、運動はできるし、素直でええ子やなあ」と、褒められて(?)いたぐらいです。

中学1年生の夏休みに、「高校見学に行こう！」と2人で出かけました。校区内の11校の公立高校と一緒に回り、「どこに行きたい？」と聞いたら、県下ナンバーワンの進学高校だと言うのです。「成績はオール5が必要だよ」と言うと、「わかった」と言いました。

その後、彼なりに努力したのでしょう。中学3年生ではオール5の成績を取り、その高校に進学しました。ラッキーだったのは、弟や妹たちです。「あのバカ兄が行ったのだから・・・」と思ったのでしょうか、当然のように、中学校に入る前から同じ高校進学を狙っていました。



私が、2つの中学校で学年主任をした時も、「中学3年生で初めて高校に行くようでは遅い」と言い、中学1年生で高校の文化祭に行くように勧め、中学2年生の夏休みには、生徒たちを高校見学に引き連れて行きました。特に、私立高校の先生方は中学2年生が見学に来るというので喜んで歓迎していただき、冷たいお茶を出してくれたり、お土産をもらったりして、生徒たちは進路を大変意識するようになりました。

この学年の生徒たちの進路の結果が、圧倒的によかったのはいうまでもありません。

さて、昨年から、オープンハイスクールについて、以下のような大きな変更がなされています。

- ・**対象者は中3生に限定していない。** ⇒中1, 2年生も可！
- ・**1日2校の参加も可。**
- ・**各高校のHPに掲載する申し込み方法によって、生徒・保護者が申し込む。**
- ・**中学校側から高校に参加者の確認や名簿送付の依頼はできない。**

実際にその学校の空気を吸いに行くと、雰囲気がよくわかります。「ここに行きたい！」と本気で思わせることです。

子どもというのは、目標をもつと、思わぬ力を出します。明確な進路の目標を持ち、それに向けてスタートした生徒は、余計な生徒指導上のトラブルを起こすことはぐんと少なくなります。生徒に目標も持たせず、ただ、「頑張れ！」「ガンバ！」なんて言うのは、無責任な指導者のすることだと思います。